

令和4年度 ゼミのお知らせ

茨城学習センターの歴代所長・客員教授等によるゼミ全14！茨城学習センター所属学生であれば無料で受講できます。興味のある方、途中から参加してみたい方は事務室（Tel.029-228-0683）までご連絡ください。月ごとの日程を茨城学習センターのホームページに掲載しておりますので、確認してください。

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/ibaraki/>

NEW テーマ『日本の医療と医学の歴史を知る』 たきざわ としゆき 瀧澤 利行 原則毎月第1土曜日 13時30分～



概要: 現代日本の医学は、世界でも最先端の進歩を遂げていますが、ここまでの発展をみるまでには、中国医学、オランダ医学、イギリス医学、ドイツ医学、そしてアメリカの医学など世界のさまざまな医療文化と医学の影響を受けてきました。このゼミでは、そんな日本の医学と医療の変遷をさまざまな角度からみていくことにします。

計画: 大きく分けて、江戸時代までの医学の流れと明治維新以降の医学の流れをみながら、前近代の日本人の身体や医学のとらえ方、オランダ医学の影響、明治維新以降のドイツ医学の影響、感染症と細菌学、結核と日本人、がんと日本人、戦争と日本医学、アメリカの医学と戦後日本、麻薬・覚せい剤と日本社会、脳死と臓器移植などを取り上げていきます。

メッセージ: 医療は身近な問題です。しかし、その医療の考え方や技術の一つひとつには人類の長い歴史が反映されています。医学の歴史を知ることによって、自分たちが受けている医療の意味がより広く、深くできるようになると思います。少し難しい問題を取り扱いますが、興味があれば考えてみましょう。

NEW テーマ『近世の史料や古文書を読む』 ちば まゆみ 千葉 真由美 原則毎月第3木曜日 13時30分～



概要: 江戸時代の村や町の史料を読みながら、当時の社会を学んでいきます。人々の努力や意識を、史料に書かれた語句や文章から丁寧に読み解き、またそれぞれが調べた内容を持ち寄り知識を深めたいと思います。

計画: 茨城県内にあった村や町を対象に、すでに活字として刊行されている史料の講読から始めます。くずし字の解読も初心者向けの古文書から始めていく予定です。

メッセージ: くずし字にも挑戦して、古文書解読を進めます。難しいと思うかもしれませんが、悩みながらも楽しんで学んでいきましょう。

NEW テーマ『発達障害について考える』 みずぐち すむ 水口 進 原則毎月第3日曜日 13時30分～



概要: 発達障害には自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、特異的学習症が含まれます。それがわかるのが多くは幼児期です。最近では大人の発達障害が話題になっています。幼児期、児童機期、青年期、それぞれの時期における発達障害のありようについて、調べ、考え、みんなで話し合い、発達障害についての理解を深めましょう。

計画: 発達障害について、みなさんが今持っている知識を知り、みなさんに調べてほしいテーマを与えます。調べたことを報告してもらい、それに対して私が事例をまじえながら解説を加えていきます。皆さんとの討論を大事にします。また自閉症児を兄弟にもつ方のために書かれた本(英文)を講読する時間ももちたいと考えています。

メッセージ: 発達障害について簡単に書かれた本(新書版)がたくさんでいますので、数冊読んでみるようにしてください。しかしその知識を深めるには論文を読む必要があります。論文の探し方についてもこのゼミで学んでいきましょう。

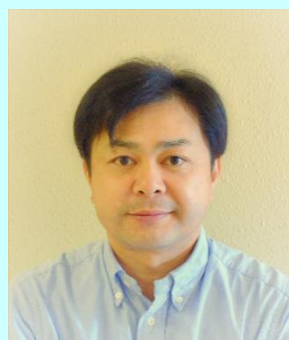
テーマ『R.Carson : The Sea Around Us. を読む』 あさの よういち 朝野 洋一 原則月 2 回隔週日曜日 9 時 30 分～



概要: 海洋は地球上の生命の故郷であり、その豊かな資源は今日まで人類を始め多くの生物の命を支えてきた。しかし、近年はプラスチック廃棄物による汚染が大きな問題となっており、マイクロプラスチックの海洋生物への影響は深刻である。さらに水産資源量の減少、温暖化に伴う海面上昇や海流の変動、原子力発電所からの放射性廃棄物放出など問題が多い。広大な面積と膨大な水量を有し、総てを飲み込んでくれるように思える海洋だが、限界が見えてきた。持続可能な開発目標の一つである海洋についての理解を深めたい。

計画: テキストは 2018 年刊行の Oxford UP 版を使用。1951 年の初版に著者注を加えた 1961 年版を基にしているため、その後著しく発展した生物・地球・海洋諸科学の知見を参照しながら読む必要がある。日本語訳(「われらをめぐる海」早川ノンフィクション文庫)もあるが、原文を丁寧に読むことを心掛ける。

テーマ『園芸生産の持続的な発展について考えよう』 いのうえ えいいち 井上 栄一 原則毎月第 4 土曜日 9 時 30 分～



概要: 農業生産のうち果実や野菜などの園芸作物は副食性食品として我々の健康維持に欠かせない品目です。茨城県は全国有数の園芸生産県ですが近年では担い手不足などによる生産者の減少や産地の弱体化に悩まされています。本ゼミでは園芸生産における持続的な発展を妨げる課題について知識を深めるとともにその解決策について議論したいと思います。

計画: まず教員から園芸生産の持続的な発展の障害となっている課題について問題提起しその背景について話題提供します。次にその課題について皆で情報収集して解決策を考えます。情報収集の一環として、特色のある取り組みや試験を行っている産地、経営者および試験研究機関などの見学も積極的に取り入れたいと考えています。

メッセージ: 我々の生活に欠かせない野菜や果物などの園芸作物が安定的に供給されるにはどうしたらよいか考えてみましょう。

テーマ『城下町水戸における商家の変遷』 おのの であつし 小野寺 淳 原則毎月最終水曜日 15 時 00 分～



概要: 水戸城下にあった現在の大大町・南町にあった商家を、徳川頼房は 1625 年頃に千波湖を埋め立てて造成した下町に本町を開設し移転させました。これを「田町越え」と呼びます。こうして、水戸城下の町人地は現在の泉町通り、本町通りの 2 か所に分かれるという双子町となります。江戸期から現在まで続く商家を特定し、老舗の商家の変遷を調べていきます。

計画: 水戸城下を歩きながら聞き取りをし、その成果は翌月の学習センターで行うゼミで報告し、情報の共有化を図ります。水戸城下の現地調査は隔月で実施し、ゼミ生の都合の良い日時で設定していきます。

メッセージ: 見慣れた水戸の町でも、歩きながら景観を観察し聞き取り調査をすると新たな発見があります。さあ、町歩きで新たな感動を実感してみませんか。

テーマ『ドイツ文学をやさしく読んでみる』 さとう かずお 佐藤 和夫 原則毎月第 2 木曜日 13 時 30 分～



概要: 前半で初級ドイツ語の復習をし、後半でドイツ文学の名作をやさしく編集したテキストを読んでいます。現在のテキストはベートーベンの「第九(合唱)」の作詩者としても知られているシラーの『群盗』(Die Räuber)です。ドイツ語をこれまで未習の方には放送授業「ドイツ語 I (19)」、あるいは面接授業「ドイツ語の基礎」をお勧めします。

計画: 前半は文法を中心として初級の練習問題を全員で検討します。後半は近代から現代のドイツ文学作品をやさしく書き改めたテキストを講読していきます。

メッセージ: 「急がず休まず」(ゲーテの言葉)歩みを進めていきましょう

テーマ『初歩の統計学(Basic Statistics)』

しおみ まさえ
塩見 正衛 原則毎月第3日曜日9時30分～



概要:塩見先生と一緒に、統計学の基礎を学びます。統計学も計算用プログラムも一から勉強する絶好のチャンスです。ゼミでは、平均やバラツキの表し方、身長と体重のような連続数、人数や個数など不連続数の扱い方などから勉強を始めます。身長や体重のように関連する2つ以上の形質の相互関係を把握できる手法の勉強などの方法とそのプログラム利用へ進みません。

計画:(1)4月から、山田剛史・杉澤武俊・村井潤一郎著「Rによるやさしい統計学」(オーム社)をテキストに勉強を始めます(テキストは各自ご準備ください)。(2)毎月1回のゼミで、上記テキストに沿って、専任の講師が講義を行い、みんなで演習を行います。次回の学習内容、日時、場所は事前にE-mailで連絡します。

メッセージ:(1)普段に、アンケート調査や感染症の広がりなど、新聞で見られる数字をより正確に理解できるようになり、身の周りのデータを自分でまとめたいと思うようになります。(2)統計学の世界を覗き、フリーの統計言語“R”の学習を手段に、統計にはまり込むまで、応用範囲を広げて下さい。基礎も演習も、先を急がず、じっくり学習します。過去に学んだ経験のある人もどうぞ。

テーマ『実用統計学(Advanced Statistics)』

しおみ まさえ
塩見 正衛 原則毎月第1日曜日9時30分～



概要:(1)統計学の基礎を終えたみなさんと、塩見先生と一緒に、一歩進んだ統計学と手法を学びます。5月からは、今話題になっている「ベイズ統計学」を本気で身につけていきます。ベイズ統計学は、100年以上研究・利用されてきた現在の統計学とは、その基礎概念が少し異なっていて、若者に人気のある統計学と手法です。計算速度の速くなったPCを誰でも使えるようになった恩恵を試してみませんか！(2)社会現象や自然現象から研究テーマを見つけ、統計的手法を利用して問題解決に取り組みます。勉強したい方も、研究したい方も大歓迎です。

計画:毎月1回のゼミで、豊田秀樹著「心理統計法」(放送大学教材'17)をテキストに、専任の講師が講義を行い、また研究の討論・発表を促します。テキストは「心理…」で始まりますが、心理学に関心のない方も抵抗なく読める「統計学」の本です。

メッセージ:新しい統計学を勉強しながら、自分が持っておられるテーマや疑問を、統計的手法を通じて解決してみようと思われる方はどうぞ！みんなで楽しみましょう。

テーマ『やさしい英会話教室』

しらいし まさたけ
白石 昌武 原則毎月第2または第3土曜日9時30分～



概要:中学校から英語を学んでいるが英語を話せない。文法を気にし過ぎ、中々言葉として出せない。そこで文法などを気にせず、出来るだけ易しい単語を用いて口に出すことから始めよう。例えば:When did you get up this morning?(今朝何時に起きましたか?) I got up at seven.(7時です)のように昔学んだ易しい単語を用い、文章を口に出して他の人に伝える、これが基本です。

計画:しばしば用いられる英語フレーズに基づき、知っている単語を使って短時間で自由に文章を作成し発表する。それについて参加者が英語で自由に質問する。

メッセージ:参加者は50歳から70歳過ぎの方々5~6人で、和気あいあいと楽しくやっています。どなたでもお気軽にどうぞ。

テーマ『西洋音楽の伝統的な発声法を研究、身に付け、楽曲に適した歌唱を行う』

たにがわ よしゆき
谷川 佳幸 原則毎月第2火曜日13時30分～



概要:発声法というものがない必要なのかを理解し、様々な発声法について考えます。発声練習を継続して行うことで技術を身に付け、楽曲に適した演奏ができるよう試行していく。まずはイタリア語の曲から始め、日本語の歌を的確に表現できるようになることを目指します。

計画:毎回まず発声練習から始めます。ただ音型を繰り返すのではなく、それぞれ何を目的にした練習なのかを理解して取り組む。その後、練習曲、イタリア歌曲、その他の外国語歌曲やオペラアリアなどを扱っていきます。なぜ外国語の歌から始めるのかを歌うことで理解し、日本語の歌に移ります。

メッセージ:いい声を生まれつき持っているのは恵まれたことですが、それだけでよい歌が歌えるわけではないし、良い声を作るための技術が発声法です。主に歌声について学んでいきますが、もちろん普段の話し声にも役立ちます。楽しく腹の底から声を出しましょう。

テーマ『情報通信・ネットワークを知ろう』

はねふち ひろまさ
羽 裕真

原則毎月第2または第3土曜日 9時30分～



概要:最近では、データ駆動社会、Society5.0、Web3.0、DX、AI などという言葉が未来社会を見据える上で重要なキーワードになっています。これからのキーワードについて、理解を深めます。このゼミでは、毎回、1つ程度の話題を提供し、話し合いながら理解を深めていきたいと思ひます。

計画:第1回目に、キーワードをピックアップします(例えば、IoT、5G、光無線通信、Web 検索、Web3.0、データサイエンス、フィルターバブル、Webマーケティング、ハッシュ関数、バイアスなど)。毎回のゼミでは、その日のキーワード(またはパスワード)に関する話題を提供し、考えを可視化しながら討論します。

メッセージ:言葉は時代とともに変わりますので、その言葉により今を知り、未来を創造/想像できるかもしれません。空想の馳せる限りに思いめぐらしてみましよう。知っている言葉も知らない言葉も楽しみながら理解を深めましよう。

テーマ『「香道真伝」を読む』

ほりぐち さとる
堀口 悟

原則毎月第3土曜日 9時30分～



概要:江戸時代後期の著名な香道書『香道真伝』(関親卿著)を、江戸時代前期の香道書『香道明鑑』(飯尾善十郎著)や中期の『香道軒の玉水』等の大枝流芳著作の諸香道書と比較しながら読み進める。『香道真伝』を味読することで完成期の香道の姿を知ると共に、他の時期の香道書と比較することで香道の栄枯盛衰を垣間見たい。

計画:『香道真伝』の「上巻」(香道発端、志野流香家の伝、香道大意、十組香の習)は、江戸時代香道伝書の到達点を示す高度な内容を持ちながら、初心者でも理解できる“やさしい香道案内”でもある。この上巻を1年かけてじっくり読み解いて行く予定である。

メッセージ:本ゼミ担当者(堀口)は、香道および平安時代文学の研究者であり、志野流香道師範でもあります。ゼミ員の皆さんと共に『香道真伝』を読むだけでなく、関連する「香」も鑑賞して、“手触りのある”ゼミにしてゆきたいと思っております。

テーマ『幸福について考える』

わたなべ くにお
渡邊 邦夫

原則毎月第2日曜日 9時30分～



概要:西洋哲学の幸福にかんする考えを、古代ギリシャと現代のいくつかの立場をみながら検討します。その検討のなかで、周りの人と自分の関係や、「うまくいくこと」と「本当の幸福」の関係などについて、自分でこれまで考えてきたことを表現したり、より明確にしたりすることにより、今後の人生が味わいをもつようにしたいと思っております。

計画:短いテキストを読んで西洋哲学の幸福論にふれて、人生にどう生かせるか考えるという授業をします。扱う哲学者はセン、ヌスバウム、ネーゲル、フラインバーグなど現代の議論と、プラトン、アリストテレスから選びます。生活実感に近い問題から入りますから哲学の学習経験がなくとも大丈夫。質問と意見交換に時間を割きます。

メッセージ:「幸福の専門家」はいません。全員が人生の主役で、全員が自分の幸福の責任者です。でも人は迷いも後悔も多いので、哲学者の提言に触発されて問題を整理して考える機会にも、ほかでは得られない独自の価値があります。

お申込みは事務室までご連絡ください
(年度ごとにお申込みが必要です)

